



414
A 93

第二十二号

四張

大正十一年四月
大隈侯爵寄贈

三月三十日

新聞抄訳



予輩全ク其原由ヲ知ラスト虽此貴顕ノ人ニ對
シテ嚴シキ所置ノ行レシハ是其明證ナリ
皇帝陛下、左右ニ侍スル者ノ中ニハ頗フル穎敏
ノ人アリト虽モ朝廷ニ於テアリシ事ハ一向ニ
其者等ノ耳ニ入ルコトナク而シテ評議ノ極メテ
秘密ナルニ因リ朝廷ニ於テ議スル處ノ事ハ他
ヨリ一モ之レヲ判断スルコトヲ得ス



朝廷ノ機秘ナルヲハ恰モ墓所ノ如クニシテ談
話ハ常ニ低聲ヲ用ユ

然レ氏予輩其誠ノ一端ヲ探知セン為メ探索ノ
事ニ勉励シ漸ク其一ニヲ聞ク得タリ即チ朝廷
ニ於テハ毎日大激論行ハレ其中ニ黨ニ分レリ
ト

朝廷ノ密謀ニ預カル者ノ内過半ノ者ノ億想ヲ
假信スル時ハ此不和ハ朝廷ノ儀式ノ事ニ關係
シテ既ニ甚ク明瞭ニ詳ヲ尽シテ嚴然ト行政ノ
長官ト大臣參議ヲ分離スルヲ請求セシテ

ニ而シテ或者ハ長官ニ置レタル參議ハ兩職兼
勤ノ事ニ付キ其下官ヨリ兩職ヲ兼務スルコトハ
名リシニシテ實ハ其職ヲ空フスルナリト云テ
議論ヲ受ケ其可シクハ
四月十四日ニ元老大審員兩院ヲ置レ七皇帝陛
下ニ宣示ハ大ニ人々觀望ヲ起セリ如何トナレ
ハ此時ヨリ其権限ヲ更ニ區別セサル立法行政
ノ兩職ノ氣ヌル又アルヲ實見スレハナリ
是故ニ官職ヲ俸給ヲ專買スルノ弊起リ其患ヲ
受ケカレ者ハ之レヲ疾視スルニ至レリ

故ニ立法行政ノニ権ヲ分離シ俸給ヲ定限スル
ノ議論ハ不平ヲ懷ク者ト嫉妬ヲ懷ク者ノ間斷
ナク告訴スルニ因テ日ニ益々熾シナリ
先頃朝鮮ニ君テ雲揚艦ノ事アリシニ就キ茲ニ
至テ各人ノ存意白日ノ下ニ現レ昔日ノ議論甚
メ活潑ニナレリ實ニ帝國ノ安危存亡決スルノ
秋ニ際セリ其委曲ハ請フ看官次ノ文ヲ見テ知
レ可シ

現今ノ諸官負及々重職ハ儼然トニ派ニ分レ一
ハ獨裁ニ復ス可シト云ヒ一ハ良好ノ立憲政事

ヲ確立ス可キト主張ス皇帝ハ陛下ノ首大臣
戦争ノ事ニ付キ或ハ大官一人ハ參議ニ對シ
慢言ヲ以テ速クニ小人数ヲ附與セラレ可キ
言テ連日ニ抗拒シタレハ三條大臣ハ其傲
慢无稽謂ル日ニ憤回其争論ヲ制止セリ
尚又ノ言ハハ甚ク高名ナル大臣數人暴
言ヲ以テ外務卿ヲ處置シ内務卿ヲ處置シ評論セ
ルトハ大臣ハ已レテ議論ヲ同僚長説テ依テ
此方ニナラズ同意ヲ表セシ高貴人ノ連判シタ

ル書面ヲ出シテ示セリト
前ニ云ハル總ヘテノ議論ト所見ハ予輩ヲ以テ
見ル時ハ一モ善事ト思ハレス今茲ニ一事アリ
三十六人ノ者其事ニ付各々指令スル権ヲ以テ
發言シ自他ノ持論ニ抗スルニ各自ノ持論ヲ以
テスル時ハ事益々困難ニナリ遂ニ事ノ成ラサ
ル可キハ必然ナリ
予輩尚聞知セシニハ十九日、内評議ニ於テ大臣
參議相共ニ皇帝陛下ニ兩黨ノ内一ニ裁決セラレ
ルトテ懇請セリト而テ皇帝出御ノ節大臣一人

ト參議一人、一問ニ招カレテ夕陽ニ至ル迄密
議セラレシト然レ其密議ハ一モ他ニ洩レサリ
シノ如シ
其翌日天皇陛下ハ十九日ノ會談ニ於テ上申シ
タル願ハ趣ハ採用ニナリ難キ旨ヲ達セリト
誰レノ意モ満足セシメサル此達レアリテ改參
議数名ハ皇帝陛下ニ連リニ免職ノヲテ願ヘリ
ト電報ニテ通
過刺ノ風聞ニハ其景况益々困難ニナリ何カ動
搖ヲ醸ス因テ皇帝ハ其旨ヲトテ得ズ疑ヒノ

アル可キ數又ニ對テ嚴酷ナル處置ヲ行フニ
決セリト爾來ハ其景況益々困難ナリテ
先づ第一ニ其軍ヲ召ルニ令出スル
然レども皇帝對テハ此ハ一國ノ存亡ニ
關スル事也故テ其決意ヲ示シテ
其翌日天皇對テハ十日ハ會談ニ於テ
子等也同知セシメテ十九日四時
無事ニ退去スル事也其後ハ
一國ノ存亡ニ關スル事也

十月廿八日刊行「エゴジエジャツポ」新聞抄譯

北支那「イリヌ」新聞ニ掲載スルニ通ノ電報

左ノ如シ

香港十月十七日發 當今ノ奉行ハ支那トノ紛

紘ハ和睦ニ談判整ヘリトノ公告ヲ受ケタリト

龍動十月十四日發 ワード氏其要求ノ保証ヲ

得テグロスマル氏ハ雲南ニ出立ス可シトノ告

ヲ電報ニテ通セリ

